

## 研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名: デジタル映像数学の構築と表現技術の革新

2. 研究代表者: 安生 健一 ((株)オー・エル・エム・デジタル

取締役・ビジュアルエフェクト/R&D スーパーバイザー)

3. 中間評価結果

映像数学グループ、CGグループ、数学モデルグループそれぞれの研究は進展しており、当初の主目的である「CG 作成技術の革新」という観点から見て以下の重要な課題

①学習機能つき直接操作法(LDMB)の開発

②自然現象の演出的表現を可能にする数学モデルの開発

についても着実な成果を挙げつつある。実際、国際的評価の高い学術誌・研究集会での発表、所属研究者の受賞歴等において本 CREST の成果は国際的に高く評価されている。CG 研究者と数学者の本格的協働についても軌道に乗りつつあり、全体として順調に進捗していると言える。数学者・コンピューターグラフィックス研究者が一堂に会する国際シンポジウム MEIS の第 1 回開催は非常に好評であり、国際的認知度をより高めるために今後の継続が望まれる。

映像数学グループと数学モデルグループが協調して担当する「人間に適した記述様式の研究」とCGグループと数学モデルグループが協働して担当する「データベースを利用した映像生成」が新たな研究項目として追加されたが、3つのグループ間の協働を軸として、最終段階で何を達成するかを明確にしておく必要はあるであろう。良い意味で代表者の指導力を発揮してもらいたい。

最終的にヒトの感情、個性、質感を理解するための新しい科学につながる可能性があり、一方でより出口につながる研究、例えば CG による人間モデルと外部環境の実測データとの統合的応用など、企業からのコンタクトが今後増大すると思われる。全体を発散させずに集約していくのは大変であるが、他の CREST チームとの協働によるシナジー効果を用いつつ、本領域の特色を出していつてもらいたい。